

「けど」と「는데」の使用実態に関する 日韓対照研究*

—共起形式の種類と頻度を中心に—

金 廷 珉**

(e-mail : kjm-0630@hanmail.net)

<目 次>

- | | |
|---------------|---------|
| 1. はじめに | |
| 2. 先行研究 | |
| 3. 調査方法と結果 | 4. 考察 |
| 3.1. 日本語の「けど」 | 5. おわりに |
| 3.2. 韓国語の「는데」 | |

キーワード：けど(*kedo*), 는데(*nuntey*), 頻度(frequency), 共起形式(co-occurring forms), 発話中(interclausal position), 発話末(utterance-final position)

1. はじめに

本研究は日本語の「けど」とそれに類似した機能を有する韓国語の形式「는데」(Park1998)の使用実態について、両者の出現位置と共起形式の種類及び頻度を中心に考察する。

これまで「けど」と「는데」は日韓それぞれの個別言語枠内において、談話機能の解明に主眼が置かれてきた(内田2001、永田2001、白川2009、이은미2012、Park1998、1999、장경현2012など)。しかし、両者の現れる位置や共起形式の諸特徴を分析した研究は少なく(田2013、三枝2015)、さらに日本語と韓国語の

* 本研究は日本学術振興会科学研究費補助金(若手研究(B)課題番号:JP16K16830)の助成を受けて行われたものである。記して感謝を申し上げたい。

** 麗澤大学, 准教授, 日韓対照言語学

対照言語学的なアプローチによる研究もほとんど見られない。

そこで本研究では、日韓のドラマを用いて「けど」と「는데」¹⁾がそれぞれ主節を伴う「発話中」(従属節内)に生じた場合(例文(1)と(2))と、主節の出現なしに「発話末」²⁾に単独で生じた場合(例文(3)と(4))とに分けて、出現位置による頻度の差があるかどうかを調べたい。これは、両形式が発話末において単独で使用される言いさし(白川2009)としての定着度を比較するうえで、頻度が一つの重要な指標になると考えたからである。次に、両者と共起する述語およびモダリティの種類別頻度を調べて、両言語間における使用実態の類似点と相違点を明らかにしたい。

(1) 惠一:あもう、三田さん。うららちゃんなんですけれど、どうしたらいいと思いますか。

三田:どういう意味でしょうか。(「家政婦のミタ」1話)

(2) 은상철:그럼 죄송한데...성함이?

박복녀:저는 박복녀입니다。(「수상한 가정부」1話)

(3) 森:あもう…大前さん、すみません。私、面談で嘘をついちゃったんです。

大前:そんなこととっくにみんなにバレてると思うけど。(「派遣の品格」1話)

(4) 강백호:어떠십니까?

양춘삼:뭐 좋은데요。(上昇イントネーション)

강백호:그럼 팀은 특별반과 다른 반 학생 팀으로 나누겠습니다。

(「공부의 신」5話)

本稿の構成は次のとおりである。2節では先行研究について概観する。3節では調査方法を説明し、調査結果について日本語と韓国語の順に提示する。4節では3節での結果を踏まえて、「けど」と「는데」の実例に基づき、両者の使用実態を考察する。最後に5節ではまとめと今後の課題を述べる。

1) 日本語の「けど」「けれど」「けども」「けれども」の異形態の代表形として「けど」と、韓国語の場合「는데/는데/인데/인데」などの異形態の代表形として「는데」と表記する。

2) 「発話末」の認定基準に関しては高木(2013:257-258)に見倣い、形態的側面に着目して「けど」と「는데」により発話が終了している例を「発話末」とした。

2. 先行研究

日本語の「けど」の用法については多角的な観点から研究が行われてきた。例えば、「けど」の談話機能について論じた内田(2001)、永田(2001)、白川(2009) 이은미(2012)、認知言語学の観点から「けど」を考察した尾谷(2011)、「が」を含む「けど」類の使用実態を調査した田(2013)、三枝(2015)などが挙げられる。ここでは本研究と最も関連のある「けど」の使用実態に着目した田(2013)、三枝(2015)を取り上げることにする³⁾。

まず、田(2013)は名大コーパスを用いて、接続助詞の「けど」(本研究での「発話中」と、「言いさし」の「けど」(本研究での「発話末」)に分けてそれぞれの使用頻度を比較した。その結果、前者よりも後者のほうが使用頻度は高いが、いずれの場合も共起する述語に偏りがあることを明らかにした。

また、三枝(2015)は現代日本語研究会編『女性のことば・職場編』(1987)と『男性のことば・職場編』(2002)を用いて、「けど」の出現位置による使用頻度と共起する述語の種類を調べた。その結果、発話中の「けど」の使用頻度が発話末の頻度よりやや高いという、田(2013)とは異なる知見が得られている。また「けど」は「と思う」、「条件+いい」といった話し手の判断を控えめに述べる表現や、「ある」、「いる」、「と言う」のような客観的な叙述表現との共起が多いと指摘している。これらの先行研究は韓国語の「는데」と対照するうえで多に参考になるが、どちらも分析に用いたデータに偏りがある。田(2013)は20代の若者同士の雑談データを、三枝(2015)は職場という限られた環境で行われた自然会話を用いているため、ジャンルによってはさらに異なる使用傾向が見られる可能性がある。そこで、「けど」の使用実態について異なるジャンルのデータを用いて、さらなる検証を行う必要があると考えた。

次に韓国語の「는데」に関する先行研究はPark(1998、1999)、장경현(2012)、송대현(2015)などがあるが、主に「는데」の意味と談話機能を中心に議論が行われてきた。一方で「는데」の使用実態について計量調査を行ったものに、손

3)他にも現代書き言葉均衡コーパス(BCCWJ)を調査した中俣(2014:38-41)、中俣(2017)がある。どちらも膨大なデータに基づいた徹底的な検証を行っているため、日本語の使用傾向を把握する上で参考になる。しかし、前者は「けど」とモダリティとの共起は調査対象としておらず、後者は「けど」が発話中(従属節)に生じた場合に限定した調査を行っている。

옥형·김영주(2009)がある。これらの研究では、「는데」は連結語尾「고」に続いて2番目に使用頻度が高いことが明らかにされている。しかしながら、「는데」の出現位置や共起形式との関係についてまでは論じられていない。

以上の研究背景を踏まえて本研究では、日韓のドラマに現れる「けど」と「는데」の用例に基づいて、両者の出現位置、共起形式の種類及び頻度に着眼した使用実態調査を行い、両言語間の類似点と相違点の明確化をはかる。

3. 調査方法と結果

3.1. 日本語の「けど」

「けど」の使用実態を調べるために、日本のドラマ3作品「家政婦のミタ」、 「ドラゴン桜」、 「派遣の品格」⁴⁾について、それぞれ1話～5話までの台詞を書き起こして用例を収集した。まず、用例に見られる「けど」の出現位置(発話中、発話末)による生起頻度を調べた結果を<表1>に示す。

<表1> 「けど」の出現頻度⁵⁾

	発話中	発話末	合計
用例数 (%)	139(59.7)	94(40.3)	233(100.0)

次に<表1>をもとに、裸の述語に「けど」が接続された場合(以後「けど」と表記)と、いわゆる説明モダリティと呼ばれる「のだ」⁶⁾を伴う「けど」(以後「のだけど」と表記)に分けて出現頻度を調べた。二つに分けた理由は、「のだ」の有無による使用頻度の差、聞き手への注意喚起といった談話上の機能が指摘されている(李・吉田2002)からである。その結果を<表2>に示す。

4)これ以降「家政婦のミタ」→「家政婦」、「ドラゴン桜」→「ドラゴン」、「派遣の品格」→「派遣」と略記する。

5)表中の()内はパーセンテージを表す。以下同様。

6)日本語記述文法研究会編(2007:189-206)。なお、本研究では「の(ん)だ/です」などの異形態の代表形式として「のだ」と表記する。

〈表2〉 「けど」と「のだけど」の出現頻度

	けど	のだけど	合計
発話中	81 (58.3)	58 (41.7)	139 (100.0)
発話末	51 (54.3)	43 (45.7)	94 (100.0)

まず、〈表1〉より「けど」は合計233例のうち発話中が約6割、発話末が約4割と、発話中での出現頻度が高いことが分かる。また、〈表2〉に示されている通り、発話中、発話末を問わず「けど」の出現頻度が「のだけど」をやや上回っている。

次に、〈表2〉に基づいて「けど」と共起する述語(動詞・形容詞・名詞述語)とモダリティの頻度を調べた。存在動詞「いる」、「ある」は動詞に分類したが、アスペクト形式が付加された「ている」、「てある」などは対象外とした。形容詞には「い形容詞」と「な形容詞(形容動詞)」を含めた。モダリティの分類においては三枝(2015)、中俣(2017)などを参考にしたが、三枝(2015)においてそれぞれ形容詞と動詞に分類されている「～すればいい」と「と思う」は、本研究ではモダリティに分類した⁷⁾。以上の分類法に基づいて調べた結果を、〈表3〉と〈表4〉に提示する。

〈表3〉 「けど」の出現頻度⁸⁾

	動詞	形容詞	名詞	モダリティ	合計
発話中	44(54.3)	17(21.0)	7(8.6)	13(16.0)	81(100.0)
発話末	19(37.3)	15(29.4)	8 (15.7)	9(17.6)	51(100.0)

〈表4〉 「のだけど」の共起形式別頻度

	動詞	形容詞	名詞	モダリティ	合計
発話中	23 (39.7)	4(6.9)	14(24.1)	17(29.3)	58(100)
発話末	25 (58.1)	2(4.6)	7(16.3)	9(21.0)	43(100)

まず、〈表3〉を見ると「けど」の共起形式は発話中、発話末ともに動詞>形容詞>モダリティ>名詞の順に高いことが分かる。次に「のだけど」は〈表4〉

7) 日本語記述文法研究会編(2007)は「～ばいい」は「評価のモダリティ」(同: 98-101)、「と思う」は「そのほかの認識のモダリティの形式」(同:183-188)と分類している。なお今回は「けどね」「けどさ」のような終助詞との共起例はモダリティの種類には含めていない。

8) 表中の()内はパーセンテージを表す。以下同様。

の通り出現位置を問わず、動詞>モダリティ>名詞>形容詞の順に共起しやすい。ここで<表3>と<表4>を比較すると、「けど」と「のだけど」の出現位置による共起形式の頻度差は観察されず、いずれの場合においても動詞との共起頻度が最も高い。しかし、モダリティと名詞述語は「けど」よりも「のだけど」と共起されやすい傾向が見られる。以上、日本語の「けど」の調査結果を見てきた。次節では韓国語の調査結果を提示する。

3.2. 韓国語の「는데」

日本語の「けど」の調査方法と同様に、韓国語の「는데」の使用実態を調べるために、3.1で分析対象とした日本語原作ドラマ「家政婦のミタ」、「ドラゴン桜」、「派遣の品格」の韓国語リメイク版「수상한 가정부」、「공부의 신」、「직장의 신」⁹⁾のそれぞれ1話～5話までの台詞を書き起こして「는데」の用例を集めた。また、これらのリメイクドラマは原作の日本語の台詞からの影響を受けている可能性も排除できないため、リメイクドラマではない韓国原作ドラマ「미남이시네요」、「올인」、「아름다운 날들」¹⁰⁾の3作品についても、それぞれ1話～5話までを対象に「는데」の用例を集めた。採取した「는데」の用例を日本語と同様に、出現位置によって発話中と発話末に分けてそれぞれの使用頻度を調べた。結果は<表5>のとおりである。

<表5> 「는데」の出現頻度

	発話中	発話末	合計
リメイクドラマ	194 (39.7)	295 (60.3)	489 (100.0)
韓国原作ドラマ	156 (46.1)	182 (53.9)	338 (100.0)

<表5>より「는데」はリメイクドラマ、韓国原作ドラマともに発話中よりも発話末に出現する頻度が高いことが分かる。

次に<表5>に基づいて日本語と同様に「는데」の前接語を調べた。ただし、述

9) これ以降「수상한 가정부」→「가정부」、「공부의 신」→「공부」、「직장의 신」→「직장」と略す。

10) これ以降「미남이시네요」→「미남」、「올인」→「올인」、「아름다운 날들」→「아름」と表記する。なお、分析対象をこれらの3作品に絞ったのは、既刊の当該ドラマの日本語対訳集(キネマ旬報社)を用いた今後の研究課題を視野に入れているからである。

語の分類において「있다(ある)」と「없다(ない)」は韓国の学校文法では形容詞として扱っているが、「있다」は命令形が存在することなどから、文法書や研究者によっては形容詞と動詞の両方を認めている場合がある(中西2007:529)。そのため本研究では日本語との対照を念頭に置き、便宜上、両者を「存在詞」(野間2007:489)に分類し、「고 있다、아어 있다」のアスペクト形式は分析対象外とした。さらに、日本語には見られない共起形式として疑問詞を追加した(Park1998)。以上の分類に基づいた調査結果を<表6>と<表7>に示す。

<表6> リメイクドラマにおける「는데」の調査結果

	動詞	形容詞	名詞	存在詞	疑問詞	モダリティ	合計
発話中	73 (37.6)	17 (8.8)	48 (24.7)	11 (5.7)	4 (2.1)	41 (21.1)	194 (100.0)
発話末	79 (26.8)	28 (9.5)	55 (18.6)	23 (7.8)	48 (16.3)	62 (21.0)	295 (100.0)

<表7> 韓国原作ドラマにおける「는데」の調査結果

	動詞	形容詞	名詞	存在詞	疑問詞	モダリティ	合計
発話中	56 (35.9)	17 (10.9)	42 (26.9)	8 (5.1)	5 (3.2)	28 (18.0)	156 (100.0)
発話末	45 (24.7)	19 (10.4)	33 (18.1)	19 (10.4)	28 (15.4)	38 (21.0)	182 (100.0)

<表6>と<表7>を照らし合わせてみると、発話中における「는데」の共起形式別頻度は、動詞>名詞>モダリティ>形容詞>存在詞>疑問詞の順に高い。発話末の結果は<表6>では、動詞>モダリティ>名詞>疑問詞>形容詞>存在詞の順、<表7>では、動詞>モダリティ>名詞>疑問詞>形容詞=存在詞と、形容詞と存在詞が同比率であること以外は、ほぼ同じ結果となっている。

以上の結果から、「는데」は出現位置にかかわらず動詞との共起頻度が最も高いことがわかる。また、モダリティと名詞述語は、発話中と発話末とで割合の順番が逆転している。疑問詞は発話中においては共起頻度が最も低いのに対して、発話末では4番目に高い結果となっている。以上、韓国語の「는데」の調査結果を見てきた。

4. 考察

本節ではこれまでの調査結果を踏まえて、「けど」と「는데」の使用実態の傾向について日韓の対比を行いたい。ただ、両言語における述語の品詞分類の違いや、それぞれの個別言語内の特徴(例えば、日本語の「のだ」と「けど」との共起しやすさ、日本語には見られない韓国語における「疑問詞」との共起)を考慮すると、共起形式別の割合の単純比較はあまり有意味とは言えない。よって、ここでは日韓それぞれの言語において、共起形式別に頻度の高いものを中心に用例を見ていき、考察の論点を絞って日韓両言語の対比を行うことにする。

まず初めに、出現位置による頻度数の差について対比を行う。3.1の<表1>と3.2の<表5>を比較すると、今回の調査では「けど」と「のだけど」は発話中>発話末であるのに対して「는데」はその反対の結果となっている。「けど」に比べて韓国語の「는데」のほうが、主節の随伴なしで出現する「言いさし」(白川2009)としての定着度が高いと考えられる。

続いて日韓両言語において出現位置を問わず最も共起頻度の高い「動詞」への接続について見てみたい。日本語に見られる主な動詞は「わかる、ある、言う/言われる、聞く、習う、頑張る、見える、見る、行く、置く、現れる、なる、ほっとする、我慢する、驚く、許す」などその種類は多岐にわたる。これらのうち、比較的共起されやすい主な動詞は「わかる、ある、言う、聞く」の4つに偏っており、「けど」と「のだけど」の両者の間には顕著な差が見られなかった(三枝2015)。

一方、「는데」との共起動詞は「가다,오다,보내다,생기다,듣다,춤추다,넘다,뛰다,보이다,되다,알다,모르다,말하다,임원하다,칭찬하다,준비하다,싫어하다,좋아하다」など、日本語と同様に多種多様な動詞が用いられているが、特定の動詞への偏りは日本語ほど観察されず、「하다」類の動詞が多く用いられる傾向が伺えた¹¹⁾。

しかし、この背景には日本語における高頻度の動詞「ある」と意味的に等価な

11) 今回の調査と直接的なかわりはないかもしれないが、野間(2007:505)によると、韓国国立国語院が調査した「現代韓国語使用頻度調査」の結果において「하다」の使用頻度が第2位を占めていることとまったく無縁ではないと思われる。今後、韓国語のコーパス調査を通して「는데」と共起する動詞の頻度調査も行う必要があると思われる。

韓国語の「있다」を、本研究では存在詞に分類したことによる可能性がある。そこで「ある」と「있다」の使用例を対比してみたい。日本語では(5)「話があるんだけど」のように本題を述べる前の「前置き」的な用法が見られる。韓国語にも類例(6)「할 말이 있는데」が見られる点で両者は平行的である。ただ、今回の調査では、そのほとんどがリメイクドラマからの用例であったため、原作の日本語に影響されている可能性が示唆された¹²⁾。

(5)翔:お父さん、いつまで入ってるの?もれちゃうだろ。

恵一:ごめんごめん。今でるから。(中略)ごめんごめん、実はちょっと話があるんだけどさ。

翔:何時間入ってるんだよ。(「家政婦」1話)

(6)은상철:저기 있잖아. 니들한테 할 말 있는데..

한걸:뭔데? (「가정부」2話)

次に、形容詞への接続について見てみたい。日本語の形容詞は「のだけど」より「けど」に直接接続する例が多い(表3と表4参照)。「悪い、いい、申し訳ない、好きだ、無理だ」などの共起例のうち、(7)のように「悪いけど」に続く発話において相手をお願いや頼みをする場面において、「前置き」表現として使われる場合が多く見られた。

(7)小笠原:まあまあ、東海林主任。コーヒー飲んで、機嫌直そうよ。森ちゃん、悪いけどね、これでみんなの分買ってきてくれないかな。(「派遣」2話)

韓国語の「는데」に前接する形容詞は「죄송하다, 좋다, 많다, 괜찮다, 힘들다, 바쁘다, 귀엽다, 아프다, 춥다, 빠르다, 시끄럽다, 그럴싸하다, 힘들다」など多様な形容詞が見られた。その中でも、発話中では「죄송하다」が、発話末では「좋다」がよく使われていた。前者の場合は(8)後続発話において依頼や(2)質問を行う際の前置き表現として用いられており、後者の場合は(9)相手から意見を求められた場面において自分の考えを断定しない形で述べる際に用いられていた。

12) <表6>において、存在詞の共起頻度は発話中(11例)、発話末(23例)であるが、このうち「있다」の「前置き」的な用法は発話中(2例)、発話末(7例)であった。一方、<表7>の韓国原作ドラマのほうでは発話中(8例)、発話末(19例)のうち、1例のみであった。

(8)은상철:생일카드요? 누가 쓴 겁니까?

박복녀: 알수 없습니다. 걸만 봐서.

은상철: 죄송한데 봐주시겠습니까? (「가정부」 1話)

(9)=(4)

강백호:어떠십니까?

양춘삼:뭐 좋은데요. (上昇イントネーション)

강백호:그럼 팀은 특별반과 다른 반 학생 팀으로 나누겠습니다.

(「공부」 5話)

続いて名詞との共起関係について見てみたい。日本語では「風間ですけど」のように電話で自分を名乗る「身元紹介」(李・吉田2002:225)や、(10)のように特定の人物を話題にして話を切り出す際に用いられる場合が多い。類例は韓国語にも見られるが、韓国語では話題の人物を取り上げる場合は、(11)のように「말인데요」¹³⁾が付随した形で使用されるのが特徴的である。

(10)=(1)

惠一:あのう、三田さん。うららちゃんなんですけれど、どうしたらいいと思いますか。

三田:どういう意味でしょうか。(「家政婦」 1話)

(11)박복녀:그만 퇴근하겠습니다.

은상철:아 예..수고하셨습니다. 저, 저기요.저기 애들 이모 말인데요, 어떻게 하면 좋겠습니까?그 대체 처제가 어찌려는 건지 좀 물어봐 줄 수 있을까요? (「가정부」 1話)

両者と共起しやすいモダリティ形式については日韓両言語間で共通しているのだろうか。まず、出現位置によるモダリティとの共起頻度を対比してみると、両言語間には(12)のような使用傾向の違いが観察される。

(12) 「けど」と「는데」のモダリティ形式との共起頻度

「けど」と「のだけど」：発話中>発話末(表2と表3参照)

13) この点に関しては「말이다」の文法化と関連があると思われるが、本稿ではこれ以上触れない。

「는데」：発話中<発話末（表6と表7参照）

「けど」と共起するモダリティの種類は「と思う、たい/てほしい、ようだ/らしい/そうだ、わけではない、べきだ、てはいけない」などが観察されたが、これらのうち上位3つは<表8>のとおりである。

<表8> 「けど」と共起する上位3つのモダリティ形式

発話中	発話末
と思う	と思う
たい/てほしい	たい/てほしい
わけではない	ようだ/らしい/そうだ

<表8>を見ると、「と思う」、「たい/てほしい」は出現位置に関係なく「けど」と共起しやすいことがわかる。3.1で見たように、モダリティは「けど」に比べて「のだけど」と共起しやすい傾向にある。例えば、(13)と(14)はどちらも自分の意見を述べる場面であるが、(13)「思ったんだけど」と(14)「思ったけど」を比べてみると、微妙な差ではあるが「のだ」を伴う(13)のほうが、(14)に比べて自分の意見を控え、相手の反応を意識している(李・吉田2002)ニュアンスが感じられる。

(13)桜木:ところで、昨日のお買い物というのは、そのイヤリングのことですか?

理事長:え?おわかりになります?ねねねね、これちょっと若いのかな思ったんだけど、どうかしら? (「ドラゴン」2話)

(14)=(3)

森:あのう…大前さん、すみません。私、面談で嘘をついちゃったんです。

大前:そんなこととっくにみんなにバレてると思うけど。(「派遣」1話)

次に、「는데」と共起するモダリティについて見てみる。「는데」と前接する主なモダリティ形式は「~것 같다,~나보다,~지 모른다,-겠-」(推定・推測)、「-다는데」(伝聞)、「~려고 하다」(意志)、「~야 되다/~면 안 되다」(当為)、「~고 싶다」(願望)、「~수 있다/ 줄 알다」(能力)など多岐にわたっていた。これらのうち上位3つは<表9>に示す通りである。

〈表9〉 「는데」 と共起する上位3つのモダリティ形式

	発話中	発話末
リメイクドラマ	것 같다	것 같다
	려고 하다	야 되다
	고 싶다	다는데(伝聞)
韓国原作ドラマ	려고 하다	것 같다
	것 같다	야 되다
	겠(推測)	도 되다/면 안 되다

〈表9〉を見ると、リメイクドラマと韓国原作ドラマにおいて微妙な違いは見られるものの、「는데」は出現位置を問わず「~것 같다」との共起頻度が最も高いことが分かる(例(15)と(16))。

(15)경찰:같이 좀 가 주셔야겠습니다.

강백호:무슨 일이죠?

경찰:사기 혐의로 고소장이 접수 됐습니다.

찬두:아버지!

강백호:오해가 있는 것 같은데 일단 가지죠. (「공부」 3話)

(16)제르미:나는 이런 여자가 좋더라.태경이 형도 이런 여자가 좋지?

저번에 그랬던 거 같은데.

태경:그런 적 없어. 안 좋아해. (「미남」 4話)

一方、発話中の「는데」は(17)意志を表す「~려고 하다」(~ようとする)との共起が多いのに対して、発話末の「는데」は(18)当為の「~야 되다」(~なければならない)や、許可の「~도 되다/~면 안 된다」(~てもいい/してはいけない)のような、行為モダリティとの共起が多い。

(17)장규직:내가 전화를 하려고 했었는데 전화번호를 몰라가지고. (「직장」 1話)

(18)찬두엄마:이리 와 앉아 봐.

찬두:나 학교 가야 되는데.

찬두아빠:와 앉아. (「공부」 3話)

一方、「けど」は(19)「べきだ」(1例のみ)、(20)「てはいけない」(3例)といっ

た当為を表すモダリティ形式との共起例は非常に少なく、この点において韓国語との相違が見られる。

(19) 恵一: これ住所なんで。あ、いや、もちろん僕が行くべきなんですけど、向こうのお父さんがどうも苦手というか、いや、たどえ僕が行ったとしても「お前の顔なんか見たくない」って怒鳴られるだけだと思うんで。
(「家政婦」1話)

(20) うらら: それより海斗、大丈夫? あんたも反省しなくちゃいけないけどさ、私はやっぱりもともとはじめをする子が悪いと思う。っていうかさ、なんでそういうこと最初から私に相談してくれないわけ?
海斗: ほっといてくれないかな、迷惑だから。(「家政婦」2話)

最後に韓国語のみで見られる疑問詞と共起する「는데」を取り上げる。「는데」は(21)と(22)のように「무슨」「뭐」などの疑問詞と共起し発話末を「는데」で終止している例が多く観察される。

(21) 한결: 내가 니 등쌀에 괜히 아빠 만나러 갔다가 무슨 꼴을 보고 온 줄 알아?
두결: 무슨 꼴을 봤는데?
한결: 아 됐어!
두결: 아 뭔데? 대체 뭘 봤는데?
한결: 너 같은 한심한 놈하고 얘기해 봤자야 (「가정부」5話)

(22) 혜선: 그 많은 땅을 사서 뭐해요?
도환: 내가 원하는 걸 이루려면 많은 것도 아니야.
혜선: 당신 원하는 게 뭔데요?
도환: 내 거기다 세상에서 제일 큰 호텔을 지을 거다.(「올인」3話)

Park(1998,1999)によると、上掲のような「는데」止まりの疑問詞疑問文は、先行文脈との関連性が強い。(21)では先行発話における話し手「한결」の発話「무슨 꼴을 보고 온 줄 알아?」に対して、「見てきたのは何か」を確かめるために、(22)では先行発話者「도환」の発言を受けて、「도환のほしがっているものが何か」を確認する場面において「는데」が用いられている。

このような「는데」の用法に対して、日本語の「けど」が統語的に疑問詞と共

起することはない。しかし「先行文脈との関連付けた質問文には「のだ」が用いられるので、先行する聞き手の発言が正しいかどうかを確認する場合にも「のだ」が用いられる」(野田1997:126)という指摘と、(22)の「혜선」の台詞に対する日本語訳(22')において「のだ」が対応している事例を鑑みると、「疑問詞+는데」止まりの疑問文と「のだ」を介在した疑問文の間には機能的類似性が窺える。

(22') 혜선: 당신 원하는 게 **뭔데**요?

ヘソン: 「あなたの望みって、**何なんです?**」¹⁴⁾

ところが、従来の日韓対照研究では「のだ」に対応する韓国語の文末形式として「것이다」が取り上げられることが多かった(金2008など)ため、「疑問詞+는데」と「のだ」文との関わりについてはあまり注目されてこなかったと思われる。この点に関しては稿を改めて論じたい。

以上、「けど」と「는데」の使用実態について、出現位置(発話中、発話末)による頻度の差、両者と共起する述語及びモダリティの種類別頻度を中心に日韓語の対比を行った。

5. おわりに

本研究では日本語の「けど」と韓国語の「는데」の使用実態の把握を目的に、日韓のドラマの用例に基づいて調査を行った。結果は以下のようにまとめられる。

(I) 出現位置による頻度の差

日本語の「けど」と「のだけど」: 発話中 > 発話末

韓国語の「는데」: 発話中 < 発話末

(II) 共起形式の種類別頻度

「けど」: 出現位置を問わず、動詞 > 形容詞 > モダリティ > 名詞

14) 安岡明子翻訳(2004)『オールイン運命の愛で始める韓国語～シナリオ対訳集～』, キネマ旬報社, p.62.

「のだけど」：出現位置を問わず、動詞>モダリティ>名詞>形容詞
発話中の「는데」：動詞>名詞>モダリティ>形容詞>存在詞>疑問詞
発話末の「는데」：動詞>モダリティ>名詞>疑問詞>形容詞¹⁵⁾存在詞

(Ⅲ)共起しやすいモダリティ形式

両形式ともに認識モダリティ(日本語は「と思う」、韓国語「~것 같다」)と共起しやすい点では共通するが、「는데」は当為を表す行為モダリティ(「~야 하다」)との共起頻度も高い。

今回の調査では「けど」と「는데」の頻度調査に主眼をおいたため、発話位置による両形式の生起頻度の差と、両形式と共起しやすい前接語の種類やモダリティ形式の傾向を把握することはできたものの、頻用される述語やモダリティ形式と、その談話機能との関連性(Lastres-López2018)についてまでは考察することができなかった。また、韓国語の「疑問詞+는데」止まりの疑問文と、日本語の「のだ」を伴う疑問文との対比も必要である。これらはすべて今後の課題としたい。

【참고문헌】

- 손옥형·김영주(2009)「한국어 구어에 나타난 종결어미화 된 연결어미 양상 연구」『한국어 의미학』 28, 한국어 의미학회, pp.48-71
- 송대현(2015)「한국어 연결어미 ‘-는데/은데’의 의미와 담화 기능 연구」『국제어문』 66, 국제어문학회, pp.167-191
- 이은미(2012)「화용론적 관점에서 본 けど의 문말의 사용양상」『日本研究』 52, 한국외국어대학교 일본연구소, pp.361-380
- 장경현(2012)「연결어미에서 기원한 종결어미의 의미 연구 ‘고/는데’의 담화 의미기능을 중심으로」『한국어 의미학』 38, 한국어 의미학회, pp.109-134
- 李徳泳·吉田章子(2002)「会話における「んだ+けど」についての一考察」『世界の日本語教育』 12, 国際交流基金, pp.223-237
- 尾谷昌則(2011)「語用論的視点から見た構文の拡張」『構文ネットワークと文法』尾谷昌則・二枝美津子(著), 研究社, pp.241-285
- 金廷珉(2008)「日韓語の名詞化の談話・語用論的機能に関する対照言語学的研究—「のだ」と「것이다(KES-ITA)」を中心に—」東北大学大学院博士論文。
- 内田安伊子(2001)「「けど」で終わる文についての一考察—談話機能の視点から—」『日本語教育』 109号,日本語教育学会, pp.40-49
- 三枝令子(2015)『語形から意味へ機能中心主義へのアンチテーゼ』くろしお出版, pp.147-174

15) 表6と表7の形容詞と存在詞の結果を合わせて「≥」を用いて表した。

- 白川博之(2009)『「言いさし」文の研究』くろしお出版, pp.15-35
- 高木丈也(2013)「日本語と朝鮮語の自然会話における「情報要求」を表す「中途終了発話」
『朝鮮語研究 5』,くろしお出版, pp.253-282
- 田昊(2013)「「言いさし」の「けど」類の使用実態に関する一考察－日本語教育文法の視点
から－」『日本語教育』156, 日本語教育学会, pp.45-59
- 中西恭子(2007)「形容詞をめぐって」『韓国語教育論講座』第1巻, くろしお出版, p.529
- 永田良太(2001)「接続助詞ケドによる言いさし表現の談話展開機能」『社会言語科学』第3巻
第2号, 社会言語科学会, pp.17-26
- 中俣尚己(2014)『日本語教育のための文法コロケーションハンドブック』,くろしお出版,
pp.38-41
- _____ (2017)「接続助詞の前接語に見られる品詞の偏り - コーパスから見える南モデル -」
『日本語の研究』第13巻4号, 日本語学会, pp.1-17
- 日本語記述文法研究会編(2003)『現代日本語文法4』,くろしお出版, pp.98-101, pp.183-206
- 野田春美(1997)『「の(だ)」の機能』,くろしお出版, p.126
- 野間秀樹(2007)「動詞をめぐって」『韓国語教育論講座』第1巻,くろしお出版, p.489, p.505.
- Park,Yong-Yae(1998) Interactive Grammar:The Turn-Final Use of *nuntey* in Korean
and *kedo* in Japanese, In Silva, D.(Ed.).*Japanese/Korean Linguistics* 8,
CSLI, pp.45-59
- _____ (1999)The Korean connective *nuntey* in conversational discourse,
Journal of Pragmatics 31, ELSEVIER, pp.191-218
- Lastres-López, Cristina(2018) *If*-insubordination in spoken British English:Syntactic
and pragmatic properties, *Language Sciences* 66, ELSEVIER, pp.42-59
(<https://doi.org/10.1016/j.langsci.2017.12.009>)

논문 투고 일자 : 2018. 06. 24.
논문 심사 일자 : 2018. 07. 31.
게재 확정 일자 : 2018. 08. 03.

＜要旨＞

「けど」と「는데」の使用実態に関する日韓対照研究
—共起形式の種類と頻度を中心に—

金廷珉

本稿は日本語の「けど」と韓国語の「는데」の使用実態を明らかにすることを目的とする。具体的には両者の出現位置による頻度と、共起する述語とモダリティの種類別頻度を調査した。結果は以下のようにまとめられる。

(I) 出現位置による頻度

「けど」と「のだけど」：発話中>発話末 「는데」：発話中<発話末

(II) 共起形式別の生起頻度

「けど」：発話中、発話末を問わず、動詞>形容詞>モダリティ>名詞

「のだけど」：発話中、発話末を問わず、動詞>モダリティ>名詞>形容詞

発話中の「는데」：動詞>名詞>モダリティ>形容詞>存在詞>疑問詞

発話末の「는데」：動詞>モダリティ>名詞>疑問詞>形容詞>存在詞

(III) 共起されやすいモダリティの種類

「けど」：認識モダリティ、特に「と思う」と共起されやすい。

「는데」：認識モダリティに加えて、行為モダリティとの共起頻度も高い。

A usage-based study contrasting Japanese *kedo* and Korean *nuntey*: Frequency of their co-occurring forms

Kim, Joung-Min

This study examines the frequency of Japanese *kedo* and Korean *nuntey* paying attention to co-usage frequencies and their relation to predicate types and modalities. The results of this study are summarized as follows.

(I) Distribution of *kedo* and *nuntey* in each occurrence position

Kedo: Interclausal positions > utterance-final positions

Nuntey: Interclausal positions < utterance-final positions

(II) Preference for co-occurrence with predicates and modalities

Kedo: Verbs > adjectives > modalities > nouns

Nodakedo: Verbs > modalities > nouns > adjectives

Nuntey (interclausal position): Verbs > nouns > modalities > adjectives > existential verbs > *wh*questions

Nuntey (utterance-final position): Verbs > modalities > nouns > *wh*questions > adjectives > existential verbs

(III) Modality types as co-occurring with *kedo* and *nuntey*

Kedo: Epistemic modality (e.g. *-to omou*) was most frequently used.

Nuntey: In addition to epistemic modality, deontic modality was frequently attested in Korean.